

別海町

竹花 圭太

1. 概要と歴史

1.1 地名の由来

町名の由来は、アイヌ語の「ベツ・カイエ」(川の折れ曲がっているところ)から来ている。

1.2 歴史

最も開拓が早かったのは東部沿岸部で漁業が中心におこなわれていたが、明治 30 年代から内陸部への入植がはじまり、こちらでは畑作農業が中心におこなわれていた。

農業は昭和に入ると酪農への転換が進むが土地が広大な故開拓は遅れていた。1956 年からは世界銀行の融資を受け根釧パイロットファーム方式が導入、機械による開拓がおこなわれた。1973 年には新酪農村の建設に着手、現在の広大な酪農地帯を形成した。

開拓当初は、沿岸の本別海地区(当時は別海地区)に役場を置いていたが、内陸の入植者増加により、1933 年に別海地区(当時は西別地区)に移転した。その後、1955 年に中標津町に一部分割され、1971 年の町制施行によって現在の別海町となった。町名の読みはかつて「べつかい」「べっかい」が混在していたが、町政施行を機に「べつかい」で統一され、公的な文書や放送等ではこちらの読みが使われている。

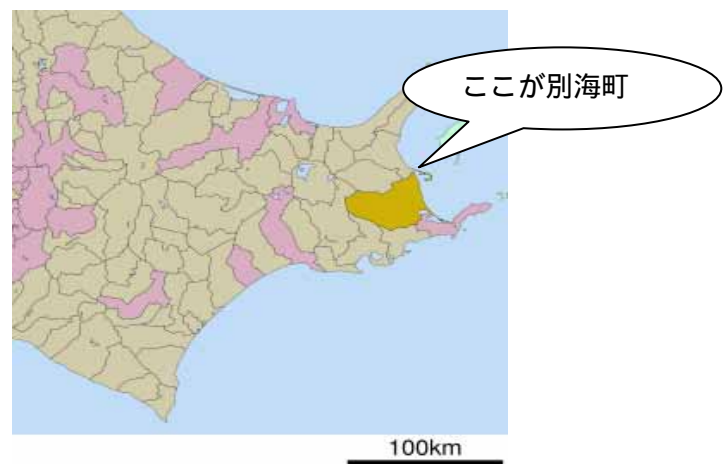
1.3 地理・気候

図 1：北海道内における別海町の位置



出典：別海町役場 H P

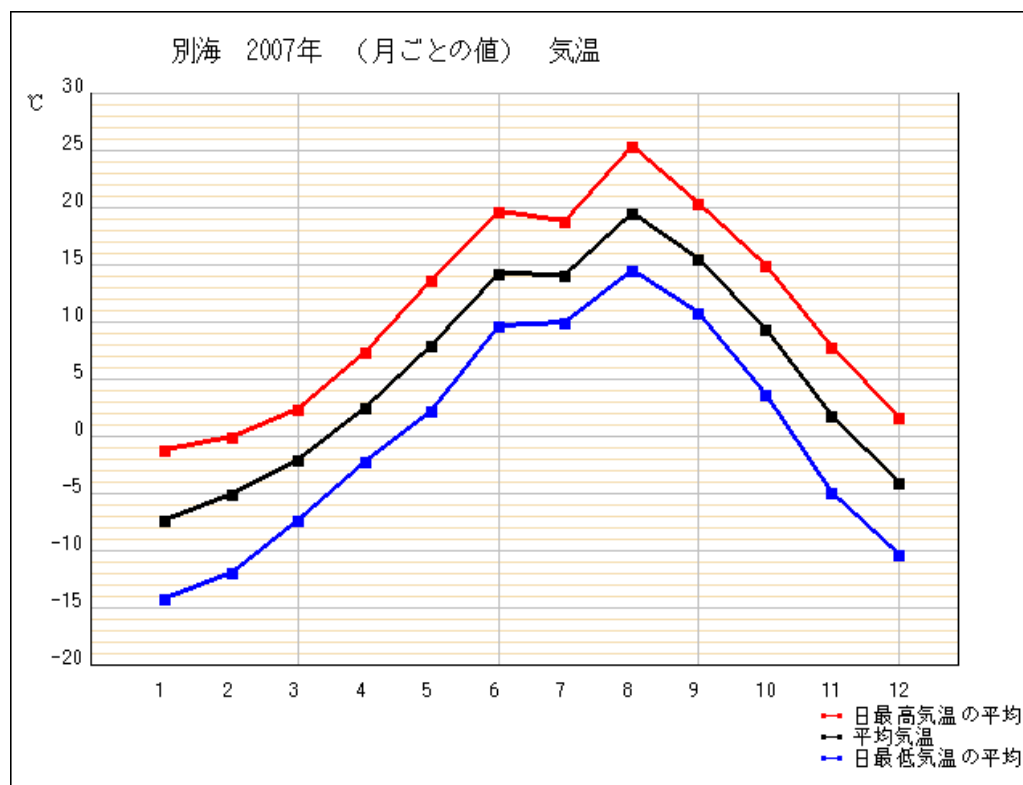
図 2：別海町の形（図の黄色線部）



出典：ウィキペディア H P

北緯 43 度 23.0 分、東経 145 度 06.9 分に位置する別海町は北見市、足寄郡足寄町、釧路市、紋別郡遠軽町に次ぎ、道内の市町村で 5 番目に面積が広い。町役場は別海に位置し、別海、中西別、中春別、西春別、西春別駅前、上春別、上風連、本別海、尾岱沼等集落が点在する。西部の地区は別海市街よりも標茶町市街の方が近い。町の大半は原野を切り開いた丘陵地帯で、北海道的な牧場風景が広がる。東部は野付水道に接し、北方領土を望む。

図 3：別海町における年間の気温の推移



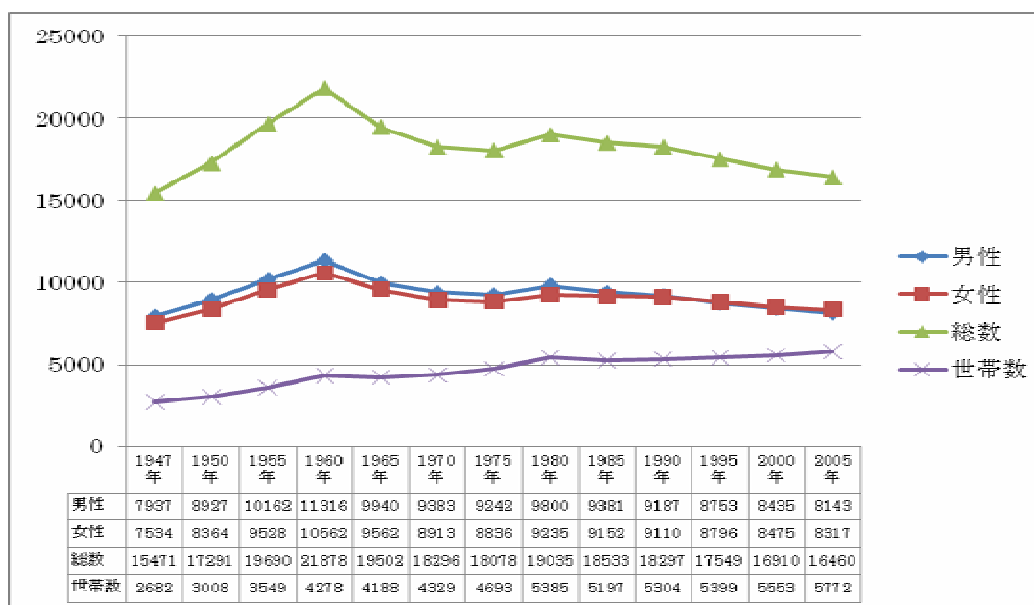
出典：気象庁HP

図 3 からわかるように別海町は 8 月でも日最高気温の平均は約 25 とそれほど高くはない。ただ、1 月の日最低気温の平均は約 - 15 とかなり寒い。

2.人口・世帯数推移

図 4 からわかるように戦後から 1990 年までは男性の人口が女性の人口を上回っていたが、その後は女性の人口が男性の人口を上回っている。ただ、人口の総数としては 1980 年から減少し続けている。また、世帯数については戦後からほぼ一貫して増加している。このように人口の総数は減っているものの、世帯数は増加していることから、一世帯あたりの人数が減っていることも推測できる。

図 4：別海町における戦後からの人口・世帯数推移のグラフ



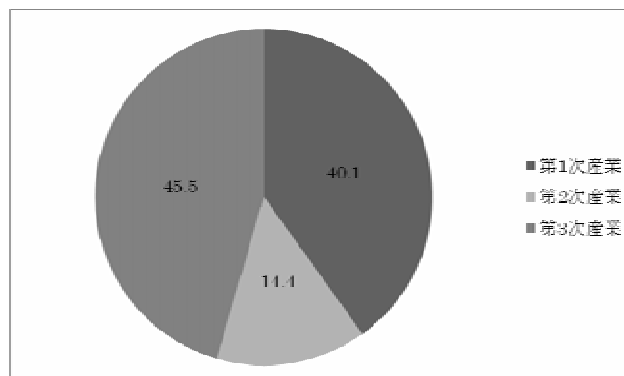
出典：北海道庁 H P

3. 産業別人口と産業

3.1 産業別人口

図 5 からわかるように別海町では第 3 次産業の割合が最も高く、第 1 次産業、第 2 次産業と続く。ただ、全ての産業の中で最も割合が高いのは第 1 次産業の中の農業で全体の 34.1%もの割合を占める。このことからいかに別海町で農業が盛んなのかがわかる。

図 5：産業別人口グラフ【グラフ内の数字は%】

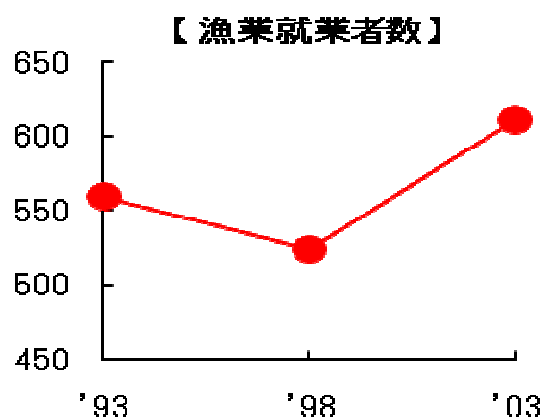


出典：根室支庁 H P

3.2 漁業

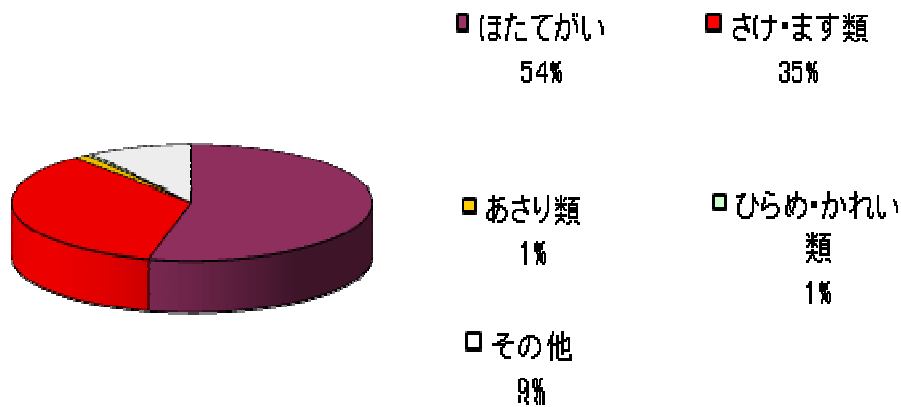
図 6 からわかるように別海町の漁業就業者数は 93 年度から 98 年度にかけて、いったん減少したが、その後 98 年度から 03 年度にかけては増加している。漁業世帯数は一貫して、上昇傾向にあるので、この漁業就業者数も増加することが予想される。

図 6：別海町の漁業就業者数推移



出典：農林水産省 H P

図 7：海面漁業の漁獲別漁獲量（2005 年現在）



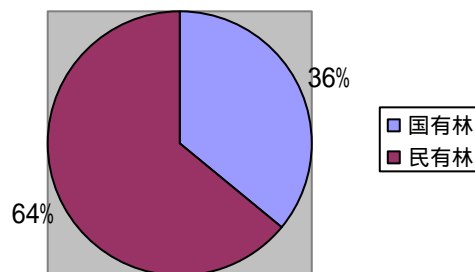
出典：農林水産省 H P

図 7 からわかるように別海町では帆立貝が最も多く獲れる。その漁獲量は漁獲量合計 29878t のうち、16058t にもおよぶ。また、漁業就業者数が増加傾向にあることから、帆立の養殖だと推測できる。その漁獲量は北海道内でも第 8 位に入る。

3.3 林業

図 8 からわかるように別海町は国有林より民有林の割合が多い。ただ、林業経営体数が 36 経営体しかないことや産業別人口における林業の割合がわずか 0.1% であること林業全体の規模としてはそれほど大きくはない。

図 8：国有林、民有林比較【単位は ha】



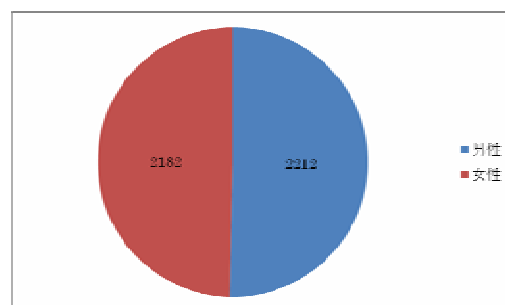
出典：農林水産省 H P

3.4 農業

3.4.1 農家人口

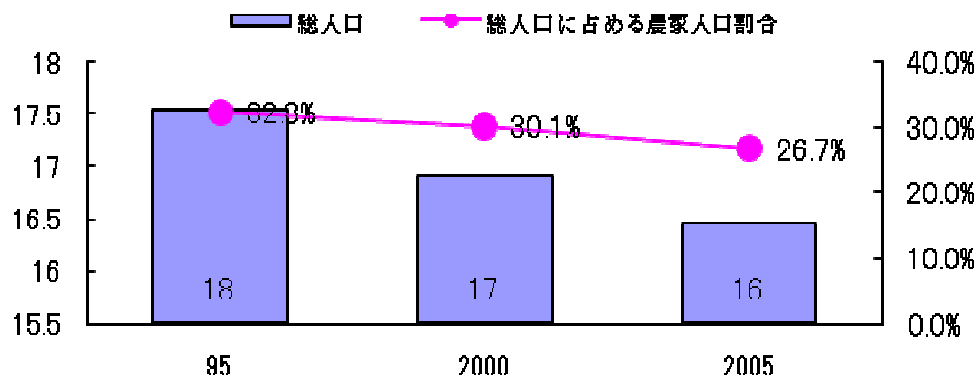
図 9 からわかるように農家人口は男性のほうが女性よりも若干人数が多い。また、図 10 からわかるように総人口が減るにつれて、農家人口も減っている。このように農家人口とともに総人口も減っていることから、農業従事者が多いことが推測できる。

図 9：男女別農家人口



出典：農林水産省 H P

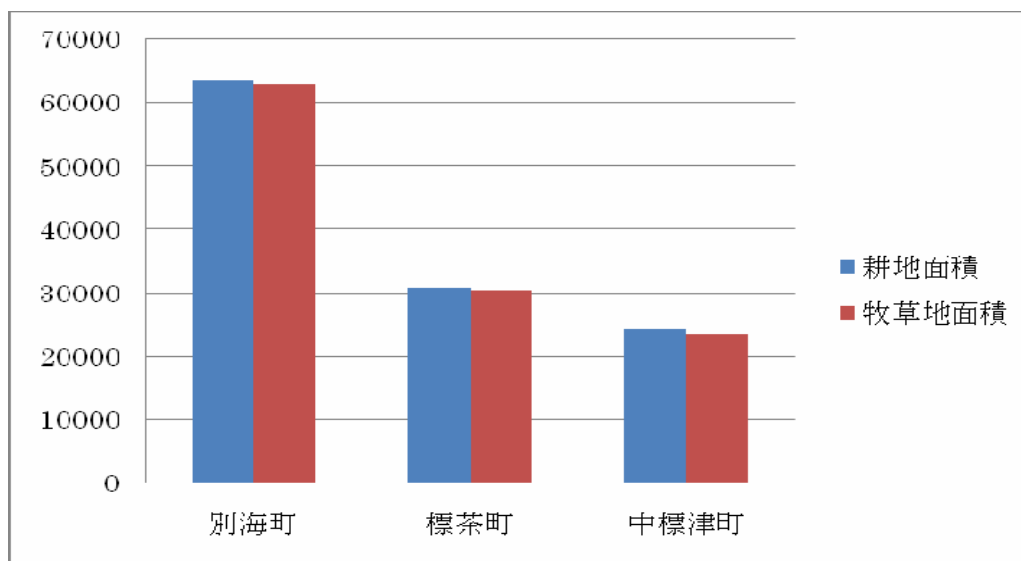
図 10：総人口とそれに占める農家人口割合の年度比較



出典：農林水産省 H P

3.4.2 面積

図 11：耕地面積、牧草地面積の比較（2005 年現在）【単位は ha】



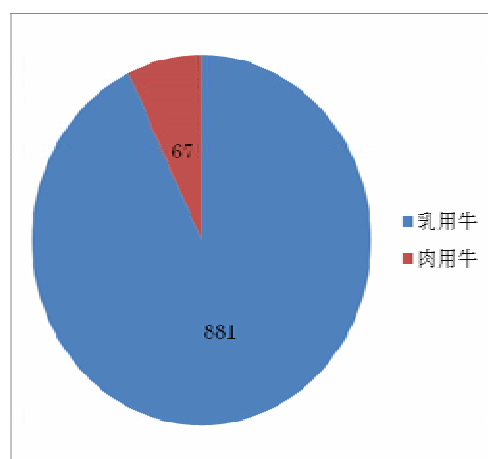
出典：農林水産省 H P

図 11 は北海道内における耕地面積、牧草地面積の上位 3 市町村を比較したグラフである。このグラフからわかるように別海町は標茶町、中標津町の 2 倍以上という他の市町村を寄せ付けないほどの広大な面積を持っている。また、その面積が耕地面積や牧草地面積であることから、その土地を利用して、酪農をしていることが読み取れる。

3.4.3 畜産など

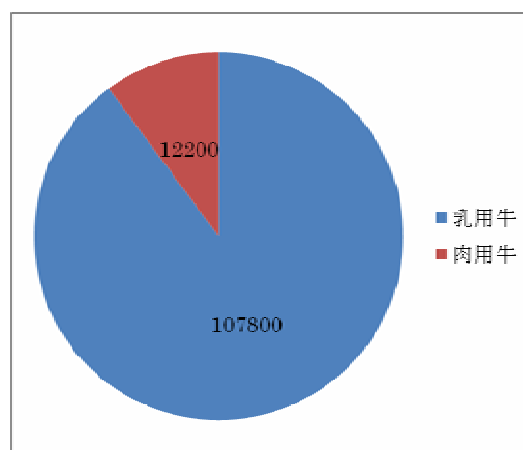
図 12、13 からわかるように別海町は戸数、頭数ともに肉用牛より乳用牛のほうが多い。また、その数は別海町の人口よりも多い。これは 1.2 の歴史の項にもあるように根釧パイロットファーム方式が導入され、大規模な酪農が始められた結果だと推測できる。

図 12：乳用牛、肉用牛の戸数比較



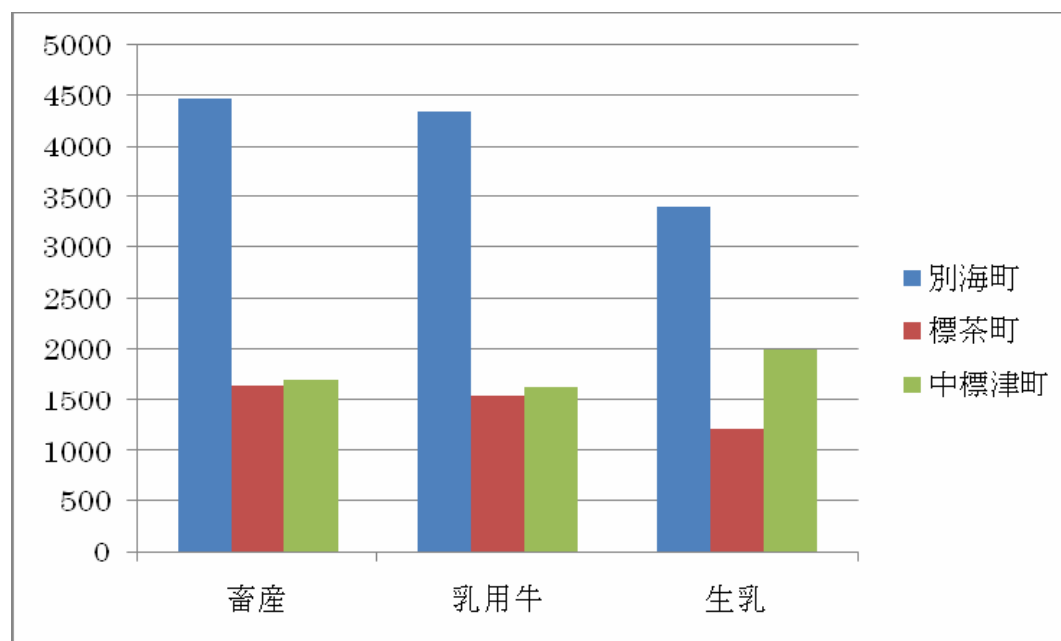
出典：別海町役場 H P

図 13：乳用牛、肉用牛の頭数比較



出典：別海町役場 H P

図 13：3 つの項目における生産額比較（2005 年現在）【単位は千万円】



出典：農林水産省 H P

図 13 は北海道内における畜産、乳用牛、生乳の生産額上位ベスト 3 を比較したグラフである。この項目についても、別海町は他の 2 町の倍以上の額を生産している。また、乳用牛は別海町全体の農業産出額の 97% にもおよぶ。

4. 名所

4.1 野付半島

別海十景の1つである野付半島は潮流によって長い年月をかけて運ばれ、堆積した土砂によって形成された。根室海峡(オホーツク海)に突き出した形で全長は約 26km にもおよび日本最大の砂嘴(さし)になる。野付半島にはトドワラやナラワラのような奇観や原生花園などの原始的な自然が多く残っており、その豊かさからラムサール条約と北海道遺産に登録されている。

図 14：野付半島の形



出典：別海町役場 H P

4.2 風蓮湖

別海町と根室市にまたがる湖で周囲約 65km、面積約 56k m²、汽水湖としては日本で 5 番目に大きな湖である。

広大なエリアー帯は、質の高い湿原と森林を持ち、手付かずの自然が残っている。

このため、数多くの野生動物や植物が生息し、ラムサール条約登録湿地に登録されている。

図 15：風蓮湖の全景



出典：別海町役場 H P

4.3. 四角い太陽

野付湾付近で冬場の朝(特に 2 月ごろ)に出現する自然現象である。

これは、空気の温度差によって起きる蜃気楼の一種で、気温がマイナス 20 度以下で上空が暖かいことが必須条件になる。

道東の冬は比較的晴天の日が多く、放射冷却による気温低下が起こりやすいため見ることができる可能性が他の地域よりも高い。

図 16：四角い太陽の写真



出典：別海町役場 H P

参照 H P

・ 別海町役場 H P : <http://betsukai.jp/>

・ウィキペディアＨＰ：

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8>

・気象庁ＨＰ：<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

・農林水産省ＨＰ：<http://www.maff.go.jp/>

・根室支庁ＨＰ：<http://www.nemuro.pref.hokkaido.lg.jp/>

・北海道庁ＨＰ：<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>